

## 優秀賞 (3点)

### 「下水道って何だろう」

優秀賞

小田原市立矢作小学校

しむら ともか  
志村 知香

わたしたちは、毎日たくさんの水を使っています。手洗い、うがい、せんがん、お風呂、トイレ、そうじ、料理など、朝おきてからねるまでに色々なことに水がひつ要です。わたしは今まで、そのよごして排水口に流した水がどこに行くのか考えたことがありませんでした。

今年、夏休みに下水道についての宿題が出て、はじめて下水道とはどういうものなのか考えるようになりました。まったく分からなかったので、図書館に行って調べてみました。

本で調べてみて、下水道のやくめは、よごれてしまった水をきれいにし、川や海にもどすことだと分かりました。また、水をきれいにすると、微生物が活やくしていると知り、とてもびっくりしました。微生物の力で水がきれいになるなんて信じられなくて、きょう味がわきました。そして、実さいに下水処理の様子を見てみたくなりました。そこで、扇町水再生センターを見学させていただきました。

さいしょにDVDを見せてもらい、下水道は森と同じやくわりをはたしていることがわかりました。わたしは、総合のかんきょうについての学習で、森林について学びました。森林は緑のダムとよばれ、水をたくわえたり、水をきれいにしたり、土砂が流れるのをふせいでくれたりします。DVDを見て、そのことを思い出しました。わたしたちが使ったよごした水は、このような自然が持っている水をきれいにする力、自じょう作用をこえてしまったため、下水道がたんじょうしたのだと分かりました。

次に、しせつの中を見せてもらいました。中でも、けん微きょうで微生物を見せてもらったことが心に残りました。しせつの方が、微生物がたくさんいることは水のよごれをとってくれているしょうこなので、微生物を見ると安心すると、教えてくれました。はたらいいて一番うれしいことをしつもんしたときもきれいな水になっているときだと教えてくれました。しせつの方たちが、下水がきれいになって川や海にもどっていくことを強く願っているのだとかんじ、そうやってはたらいいてくれている方たちのおかげで、水がきれいになりわたしたちのところへもどってくるのだと思いました。

下水がきれいになっていく様子を、順番に、最初沈殿池、微生物のまざったどろを加えて底から空気を送りこむ反応タンク、最終沈殿池、消毒施設と見せてもらったときに、あまりにおいがしなかったことにおどろきました。扇町水再生センターの上には、しらさぎ広場があります。しらさぎ広場は、小さいころから遊んでいるのでよく知っています。1、2年生のときに校外学習で行ったきらり広場も酒匂水再生センターというところの上にあると、いただいたしりょうに書いてありました。わたしは、下水のしせつの上に公園があるのは、多くの人にしせつのことを知ってもらうためなのかなと思いました。しつもんしてみたら、公園の他には、テニスコートなどのみんなが使えるしせつにしなければいけないというきまりがあり、みんなが使う場所だということで、よりにおいを出さないようにど力をするということでした。きっと、自分が遊んでいる所の下が水再生センターだと知ることによって下水について知るきっかけになると思いました。

見学から帰って、おどろいたことがありました。おみやげにいただいたキッチンペーパーに、使用すみの天ぷら油500ミリリットルを魚がすめる水しつにするには、ふるおけ840ぱいがひつ要だと書いてありました。きれいな水を守るために、まず水をなるべくよごさないように気を付けたいと思いました。